

登録先は、<http://www.maff.go.jp/mail/index.html>をご覧ください。

☆普及・女性課からのお知らせ☆

- ・知的財産専門研修のお知らせ
- ・農業改良資金貸付事例
- ・新分野進出モデル確立等支援事業について

◇農産振興課からのお知らせ◇

- ・公開セミナー「有機農業を基本から考える」の開催について

▽先端産業技術研究課からのお知らせ▽

- ・先端技術を活用した農林水産研究高度化事業  
研究紹介2007について
- ・アグリビジネス創出フェア2008の開催と出展募集について
- ・第6回産学官連携功労者表彰における農林水産大臣賞が決定

△農業技術研修館からのお知らせ△

- ・繋ぎ飼い飼養における新酪農システム導入コースについて

◇生研センターからのおしらせ◇

- ・現地検討会開催のご案内
- ・赤外線を吸収し遮熱するフィルムによるハウス耐暑栽培技術

□技術調整室からのお知らせ

- ・子どもからの未来の農業の姿のアイデア募集について

♫編集後記♪

\* \* \* \* \*

\* \* \* \* \*

産業財産権制度の概要や育成者権を中心とした権利取得、権利侵害への対応等の専門的知識や技術を習得することを目的として、知的財産専門研修を下記のとおり実施しますのでご案内します。

※この他、岡山県（8月）、熊本県（9月）においても実施予定です。

※一部の講義のみの受講も可能です。

普及指導員等

農林水產省經營局普及・女性課研修指導班  
TEL: 03-6744-2162

ページ (1)

## 「施設導入による果実収穫の早期化」

1. 借受者の経営概要と借入の動機  
借受者は家族4人でぶどう1haを栽培している。収穫物はすべて直売、宅配で販売しているが、露地栽培であるため需要の高い盆時期に収穫できていなかった。  
そこで農業改良資金を利用してパイプハウスを導入し、収穫の早期化を図り有利販売ができるようにした。
2. 貸付資格の認定を行った判断理由・内容  
本事例はぶどうの露地栽培のみから施設導入による所得向上を目的とした新たな経営部門の開始である。施設の導入は作業の分散、効率化につながるもので、農業経営の改善に寄与する。
3. 普及指導センターの対応  
普及指導センターでは、制度資金の相談を受け、事業内容を確認したところ農業改良措置に該当すると判断されたことから、農業改良資金の活用について助言した。借受けに当たり、資金計画書の作成支援のほか、施設栽培における植え付けの技術指導、肥培管理等の技術支援を行い、施設栽培技術が習得できるよう支援している。今後も月2回の巡回指導等により栽培管理技術の向上、定着及び経営の安定に向けた指導を行う。
4. 導入した機械、施設等  

区 分	事業費	借 受 額
パイプハウス等一式	1,346千円	1,346千円
5. 農業改良措置の内容  
 ○認定基準  
 新農業部門の経営開始  
  
 ○具体的作物・家畜名（生産・販売方式）  
 ぶどう（露地栽培） → ぶどう（露地栽培、施設栽培）

## 【新分野進出モデル確立等支援事業について】

本事業は、新規就農者の方が、他産業等で培った経験や知識を活かして、新たな発想で農業に取り組もうとする場合、当該事業に要する経費の一部を助成するものです。

現在、全国農業会議所でアイデアの募集を行っており、受付締切は、平成20年7月18日（金）となっています。

普及指導員の皆様方におかれましても、管内の新規就農者の方で該当する方がいらっしゃいましたら、本事業について広くご紹介下さい。

## 【支援対象者】

新規就農希望者および就農後5年未満の方

## 【支援の概要】

新たな事業に要する経費の2分の1以内、上限300万円

※事業内容、支援対象者の要件等の詳細については、全国農業会議所のHPをご参照ください。

<http://www.nca.or.jp/Be-farmer/shinbunya/index.php>

\*\*\*\*\*

◇◆◇農産振興課からのお知らせ◇◆◇

\*\*\*\*\*

## 【公開セミナー「有機農業を基本から考える」の開催について】

農林水産省では、環境と調和し、消費者ニーズの高い取組として、有機農業推進法及び基本方針に従い、平成20年度から有機農業総合支援対策を実施するなど、有機農業をとりまく環境の整備を、生産、流通、販売の側面から一体的に推進しているところです。

今般、福島県郡山市におきまして、下記のとおり、公開セミナー「有機農業を基本から考える」が開催されることとなりましたのでお知らせします。

メルマガ50号.txt

有機農業の推進に関しましては、都道府県、市町村等の関係団体、関係機関との連携を図り進めていきたいと考えておりますので、今後ともご協力をお願い申し上げます。

## 記

テーマ：「有機農業を基本から考える」  
日時：2008年7月3日（木）～4日（金）  
場所：福島県農業総合センター多目的ホール（郡山市）  
次第：  
7月3日（1日目）  
12:30 受付開始  
13:00 有機農業実証圃場見学  
14:30 情報交流会「有機農業の理解を深めよう」  
（西村和雄氏、藤田正雄氏、山下一穂氏）  
17:00 終了

7月4日（2日目）  
8:45 受付開始  
9:30 研究会Ⅰ「有機農業の堆肥・土づくり」  
11:30 交流会  
12:15 昼食  
13:00 研究会Ⅱ「有機農業の実践」  
15:00 終了

主催：NPO法人有機農業技術会議

（参加申込等の詳細情報）  
<http://www.ofrc.net/council.html>

※申し込み期限を過ぎていますが、まだ受付は可能ですので、参加希望の方はお早めにご連絡下さい。

\*\*\*\*\*

### ◇◆◇先端産業技術研究課からのお知らせ◇◆◇

\*\*\*\*\*

「先端技術を活用した農林水産研究高度化事業」研究紹介2007について

農林水産現場に密着した農林水産分野の試験研究の迅速な推進を目的とした、競争的研究資金事業である「先端技術を活用した農林水産研究高度化事業」で得られた主な研究成果を紹介した「『先端技術を活用した農林水産研究高度化事業』研究紹介2007」が公表されましたので、お知らせします。  
生産現場での普及指導に活用していただけたら、幸いです。

【農林水産省ホームページ】  
<http://www.s.affrc.go.jp/docs/kankoubutu/high2007.pdf>

【問い合わせ先】  
農林水産省農林水産技術会議事務局 先端産業技術研究課  
産学連携研究推進室 安藤  
電話 03-3502-8111（内線5894）  
03-3502-5530（夜間直通）

### 「アグリビジネス創出フェア2008」の開催と出展募集について

農林水産省では、農林水産・食品分野の技術交流展示会「アグリビジネス創出フェア2008」を平成20年10月29～30日に、東京国際フォーラムにて開催いたします。本フェアは、民間企業や研究機関、都道府県、国などで得られた新たな研究成果や技術の実用化・産業化を促し、農林水産業・食品産業分野の技術革新と、実用化を通じた研究開発成果の社会還元を図ることを目的として行うものです。

ご出展・ご来場は無料となっており、出展募集につきましては7月1日（火）より開始し、併せて7月上旬より出展説明会を全国7カ所で開催します。  
本フェアに関する詳しい情報はフェア専用ホームページにてご確認ください。

【アグリビジネス創出フェア2008専用ホームページ】  
<http://agribiz-fair.jp/>

「第6回産学官連携功労者表彰における農林水産大臣賞が決定」

第6回産学官連携功労者表彰における農林水産大臣賞として、「食品残さを活用した発酵リキッドフィーディングの開発」(独)畜産草地研究所 研究チーム長 川島氏、日本大学生物資源学部 専任講師 佐伯氏、(株)小田急ビルサービス小田急フードエコロジーセンター顧問 高橋氏)が決定され、去る6月14日に京都市で開催された第7回産学官連携推進会議(内閣府等主催)において表彰式が行われました。

受賞事例の概要については、  
<http://www.s.affrc.go.jp/docs/press/080606.htm>  
をご覧ください。

\*\*\*\*\*

◇◆◇農業技術研修館からのお知らせ◇◆◇

\*\*\*\*\*

「繋ぎ飼い飼養における新酪農システム導入コースのご案内について」

農林水産省農林水産研修所農業技術研修館では、都道府県職員等を対象とした新技術機械化体系導入研修「繋ぎ飼い飼養における新酪農システム導入コース」を実施しますので、多数の普及指導員の皆様に御参加いただきますようご案内いたします。

〔繋ぎ飼い飼養における新酪農システム導入コース〕

〔研修日程〕平成20年9月11日(木)～12日(金)

〔予定人数〕20名

〔カリキュラム〕

- (1) 繋ぎ飼い飼養における新酪農システムの概要について  
(講義：生研センター)
- (2) 新酪農システムの経営的評価(講義：畜産草地研究所)
- (3) 課題検討(各産地の現状と課題)(討議)
- (4) 新酪農システム導入牧場の事例  
(堆肥化制御システム、搾乳機自動搬送装置、細断型ロールペーラ、ふん尿処理装置など)(現地研修：栃木県真岡市 高橋牧場)

〔研修場所〕農業技術研修館  
茨城県水戸市鯉淵町5930-1  
最寄り駅：JR常磐線友部駅下車  
バスで約15分又はタクシーで約10分

〔申込締切日〕原則として、研修開始日の2週間前

〔お問い合わせ先〕

担当：飯田又は西村  
TEL：029-259-2321 FAX：029-259-2589

農業技術研修館ホームページ  
<http://www.kanbou.maff.go.jp/atti-kensyukan/>

\*\*\*\*\*

◇◆◇生研センターからのお知らせ◇◆◇

\*\*\*\*\*

【現地検討会開催のご案内】

「ハウスにおける耐暑栽培技術および作業環境の好適化技術」

生研センターでは、UR対策委託研究開発事業で、企業への委託研究により省力・高品質園芸作物生産技術の開発を行い、現在、その成果の普及促進活動を実施しています。そこで、熊本県八代市におけるトマト促成栽培ハウスの見学と併せ、ハウスにおける耐暑栽培技術および作業環境の好適化技術について

ご検討いただくため、現地検討会を下記のとおり開催致しますのでご案内申し上げます。

## 記

主催：（独）農業・食品産業技術総合研究機構 生物系特定産業技術研究支援センター  
後援：（独）農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター  
協力：MKVブラテック株式会社

開催日時：平成20年9月12日（金） 午前11:00～16:05  
開催場所：現地見学会 トマト促成栽培ハウス  
住所：熊本県八代市昭和同仁町養生  
技術検討会 八代ロイヤルホテル会議室 (<http://www.yroyal.com/>)  
住所：熊本県八代市本町2-1-5 電話：0965-34-1111

集合出発時間：  
(1) 貸切バス利用の場合 午前10:00分発 八代ロイヤルホテル前  
午前10:30分発 新八代駅東口駐車場  
(2) 自家用車等利用の場合 各会場に直接お越し下さい。  
参加費：無料（昼食代：1500円、希望者は申込み時にご予約下さい）

### 開催内容：

- I. 現地見学会（11:00～11:45）  
熱線遮断フィルムを使ったトマト促成栽培ハウス
- II. 技術検討会（13:10～16:05）
  1. ハウスにおける耐暑栽培技術および作業環境の最適化技術  
野菜茶業研究所 高収益野菜研究チーム長 高市益行
  2. 熊本県の施設園芸における温暖化の影響と対策  
熊本県農業研究センター 農産園芸研究所 野菜研究室長 小野 誠
  3. 夏場におけるトマト栽培技術  
トマト促成栽培生産者 高濱 泰
  4. 熱線遮断P0フィルムの研究開発 熱線遮断フィルム「メガクール」  
MKVブラテック株式会社 技術顧問 矢野良洋
  5. 総合討論

### 申込み方法：

平成20年8月20日（水）までに、必要事項（連絡先、氏名、部署・役職名、貸切バス利用の有無、昼食の利用の有無）を記入したEメール（[ktsuga@affrc.go.jp](mailto:ktsuga@affrc.go.jp)）又はFAX（03-3459-6577）にてお申し込み下さい。受付後、参加登録番号をお知らせ致します。  
なお、参加申し込み等詳細は、<http://brain.naro.affrc.go.jp/tokyo/>にて、「新着情報」の「平成20年度生研センターUR対策現地検討会について」をご覧ください。

### 問い合わせ先：

生物系特定産業技術研究支援センター UR対策研究開発成果普及業務担当  
プロジェクトリーダー 津賀幸之介 E-mail: [ktsuga@affrc.go.jp](mailto:ktsuga@affrc.go.jp)  
TEL: 03-3459-6568 FAX: 03-3459-6577  
〒105-0001 東京都港区虎ノ門3丁目18番19号（虎ノ門マリビル10階）

## 【赤外線を吸収し遮熱するフィルムによるハウス耐暑栽培技術】

野菜栽培において、寒冷地の夏秋取り栽培や西南暖地の梅雨期や初夏の栽培では、ハウス内の高温による野菜の品質低下、収量減および草勢の低下などで栽培に支障をきたす場面が多発するようになっている。

野菜栽培においては収量増や経営の安定化のために、周年生産や作期拡大を進めてきている。これらの作型において、作期のある部分で高温期の栽培を行うことが多くなっているため、その期間の高温対策の必要性が高まっている。

そこで、その対策の方法の一つとして、熱の基である太陽光の赤外部分の熱線を遮断するフィルム「メガクール」の利用技術について紹介する。

1. 熱線遮断フィルム「メガクール」の概要・特徴  
光合成有効波長域である400～700nmの透過率は70～80%であるが、熱線である700～1000nmの波長域の透過率は50～60%前後である。  
そのため、赤色領域（R）（660nm前後）の光の透過量と遠赤色光領域（FR）（730nm前後）の光の透過量の比率（R/FR比）が高くなる。

### 2. 導入効果

- 1) 熱線吸収による遮熱効果が認められ、通常のP0フィルムと比べ、植物体温と地温が2～5℃の温度抑制効果がある。また、ハウス内作業者の体感温度も改善され、ハウス内作業の快適性の改善が認められている。
- 2) 赤色光と遠赤色光の比率R/FR比が高まるため、節間伸長が抑制されるため、

高温による草丈の徒長を抑制できる。

### 3. 利用方法

- ・果菜類の高温期の育苗  
トマト等の育苗では遮熱効果による花芽分化節位の高段化の抑制と花芽の質向上および徒長抑制によるがっちりした苗の育成。  
イチゴでは、夏秋取りの定植前の育苗に用い暑さによる草勢低下防止と花芽分化促進と促成栽培などの秋定植時の遮熱による活着促進と花芽発育の正常化
- ・葉菜類の高温期の栽培  
夏秋どり栽培や抑制栽培時の高温期に遮熱及びR/FR比の変化による葉身の軟弱化防止や徒長防止に効果がある。特に、ホウレンソウにおける高温期の栽培に効果がある。
- ・利用上の注意点  
熱線遮熱による地温の低下や植物体温の低下等のため、地表面や葉からの蒸散量の低下が認められるので、灌水回数や灌水量を控えめにする必要がある。

### 4. 最近の普及利用状況

黄化葉巻病対策における防虫ネットとメガクールUVカットフィルムの利用、メガクールUVカットフィルムを利用して、シルバーリーフコナジラミの発生抑制とハウス内地温と植物体温の昇温防止をする。また、サイドの防虫ネットの目合いを0.4mmから0.8mmにしても、シルバーリーフコナジラミの発生に影響が無いことが認められている。

また、最近メガクール利用状況を例示する。

イチゴ： 栃木・福岡など多数県----- 花芽分化促進及び安定化  
トマト： 熊本 ----- 夏季花芽分化促進、果実品質低下防止  
キュウリ： 茨城 ----- 夏季果実品質低下防止、収量増  
ホウレンソウ： 岩手・長崎・埼玉----- 発芽安定・夏季収量増  
ネギ・ミョウガ： 福岡・高知 ----- 夏季生育促進、品質低下防止  
ニラ・トルコキキョウ： 長崎・千葉----- 高温障害防止

メガクールは製品として、P0フィルムに上記波長吸収特性を持ったもの「メガクール」とP0フィルムをネット状に編みこんだもの（通気性あり）で上記波長吸収特性を持ったもの「メガクールネット50」と同じくネット上で波長吸収性能を少し落とした廉価版「メガクールネット40」およびそれらの紫外線を吸収する性能を付与したものがある。

おわりに

本資料は生研機構（現：生研センター）のガット・ウルグアイラウンド（UR）対策研究開発事業の中でMKVプラテック（株）が商品開発したものです。  
詳しい情報を知りたい方は、下記に示す生研センターのホームページ「研究開発の成果の普及」を御覧下さい。  
<http://brain.naro.affrc.go.jp/tokyo/seika/gijutu/index.html>  
また、製品についての詳しい情報は、下記の企業等にお問い合わせ下さい。

問い合わせ先

- MKVプラテック（株）  
Tel：03-3279-3241  
<http://mkvplatech.co.jp>  
E-mail：Fujii.Yasuhiro@mb.mkvplatech.co.jp
- 生物系特定産業技術研究支援センター（生研センター）  
TEL:03-3459-6568  
<http://brain.naro.affrc.go.jp/tokyo/>

\*\*\*\*\*

◇◆◇技術調整室からのお知らせ◆◇◇

\*\*\*\*\*

「子どもからの未来の農業の姿のアイデア募集について」

農林水産省では、農業の将来ビジョンの検討を行っていくにあたり、全国の小中学生を対象として、想像力が豊かで柔軟な発想の出来る子どもさん方の夢のあるアイデアを募集することになりました。  
アイデアは、絵（イラスト）及びそのコメントにより募ることとします。  
寄せられた作品の中から、優秀な作品を「最優秀賞」、「優秀賞」として表彰するとともに、農林水産省のホームページ、農林水産省広報誌「a f f」等に掲載する予定です。また、入賞者には賞状および副賞を贈呈します。

### 1. 応募対象

全国の小中学生

### 2. 募集期間

平成20年7月1日（火）より平成20年9月30日（火）まで

### 3. 応募方法

郵送による。なお、応募用紙は下記にて入手。

- (1) ホームページにて応募用紙をダウンロード
- (2) 「子ども霞ヶ関見学デー」8月20日・21日にて応募用紙を配布

### 4. 送付先

〒100-8950 東京都千代田区霞が関一丁目2番1号  
農林水産省大臣官房企画評価課技術調整室

協賛：(社)日本農業法人協会

関連ホームページ：

- ・子どもからの未来の農業の姿のアイデア募集（応募用紙等はこちらからダウンロード）

[http://www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/g\\_idea/](http://www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/g_idea/)

- ・農林水産省における「子ども霞ヶ関見学デー」開催について

[http://www.maff.go.jp/j/kids/k\\_d/](http://www.maff.go.jp/j/kids/k_d/)

\*\*\*\*\*水\*\*\*\*\*X\*\*\*\*\*

φ・編集後記・♪

\*\*\*木\*\*\*λ\*\*\*X\*\*\*X\*\*\*\*\*

この前、仲間とやっている神奈川の田んぼで田植えをしました。昨年からは遊休農地をお借りして田んぼに戻した場所で、2回目の田植えになりましたが、苗床での苗のできたや、植えた後の雑草や藻の生え方、苗の育ち方など、昨年とはだいぶ変化が見られました。

自然条件はもちろん、政治経済や社会的な条件にも左右される普及の現場では尚更のこと、何年も同じ産地、作物、農家を担当される普及指導員の方でも、毎年違った状況に出会い、臨機応変な対応が必要とされるのでしょう。

本日は20年度普及指導員資格試験の願書受付の締め切りでしたが、新たに普及指導員を目指す皆様も頑張ってください。

@ 編集委員 U ◎

----->  
このメールマガジンに関するご意見・ご要望などがございましたら、下記までご連絡願います。

・TEL：03-3501-3769

・農林水産省ご意見・お問い合わせ窓口：

[https://www.voice.maff.go.jp/maff-interactive/people/ShowWebFormAction.do?FORM\\_NO=4](https://www.voice.maff.go.jp/maff-interactive/people/ShowWebFormAction.do?FORM_NO=4)

バックナンバーは、普及事業ホームページ

<http://www.maff.go.jp/soshiki/nousan/fukyuuka/newsite/e-bn.htm>  
から閲覧できます。

配信先の変更、配信停止等につきましては、農林水産省のホームページから手続きをお願いいたします。

農林水産省ホームページ→報道・広報→メールマガジン→配信変更・配信解除（パスワードが不明な場合はパスワード再発行）へ進んで手続きをお願いいたします。 <http://www.maff.go.jp/j/pr/e-mag/index.html>

----->  
\*\*\* ご注意 \*\*\*

メールマガジンに記載したURLで、一部PDF形式のものが 있습니다。  
PDFファイルをご覧頂くためには、農林水産省ホームページにある「Get Acrobat Reader」のボタンでAcrobat Readerをダウンロードしてください。